

《2011年12月 忘年会兼お宝情報交換会 報告》

【日時】2011年12月17日（火）（土）17:30～

【会場】フットボール居酒屋「いなば」

【テーマ】北朝鮮（DPR Korea）をめぐって（仮題）

1. お宝映像：映画「奇蹟のイレブン（THE GAME OF THEIR LIVES）」鑑賞
2. 北朝鮮レポート：FIFA ワールドカップ・アジア3次予選「北朝鮮 vs 日本」ツアー報告

【話題提供】徳田仁（(株)セリエ）ほか

【参加者（会員）14名】（もれがあるかもしれません）

- ・阿部博一（日本サッカー史研究会／いなばでの宴会風景をたっぷり写真に収める。50年後に生きる？）
- ・牛木素吉郎（ビバ！サッカー研究会／日本スポーツ法学会よりこちらを優先。前夜は東大ア式蹴球部納会にて中塚息子と乾杯）
- ・落合博（毎日新聞社／前日のスポーツ政策研究会で基調報告）
- ・金子正彦（会社員／さいたまスタジアムにて高円宮杯決勝観戦後、忘年会へ）
- ・北原由（武蔵野北高校／勤務校保護者会忘年会後に登場。かなりいい気分を経てお休みモードへ）
- ・国島栄市（ビバ！サッカー研究会／横須賀への終電がなくなり、解散後再びいなばへ。その後は…?）
- ・斉藤健司（筑波大学／日本スポーツ法学会にて基調講演。学会大会終了後に忘年会へ）
- ・白井久明（弁護士／日本スポーツ法学会事務局長。学会大会終了後に忘年会へ）
- ・白髭隆幸（スポーツジャーナリスト／水戸で天皇杯取材後、鈍行で上京、忘年会へ）
- ・関谷綾子（静岡の弁護士／日本スポーツ法学会終了後に忘年会へ。翌日はトヨタカップ決勝観戦）
- ・徳田仁（(株)セリエ／64名のツアー客を連れて北朝鮮へ。NHKの朝のニュースでも「いなば」とともに取り上げられる）
- ・中塚義実（筑波大学附属高校教諭／高体連研究部の仕事&慰労で前夜は甲府の温泉宿泊。この日はサントリー白州蒸留所と温泉を楽しみ、忘年会へ）
- ・本郷由希（会社員／イタリア人の父から1966年の敗戦のことを幼い頃から耳にする）
- ・松岡耕自（立命館大学サッカー部コーチ／インカレ観戦で上京し、ついでに忘年会。いや、その逆）

【参加者（未会員）4名】

- ・屋繁男（関大サッカー部後援会相談役／奥さんとともに若者とのひとときを満喫）
- ・屋重子（屋さんの奥さん。「サッカーでの人間形成」の可能性に言及されるが、「サッカー狂いの集団」を前にどう思われたか…。けど同化されていた）
- ・井上洋一（奈良女子大学／日本スポーツ法学会終了後に登場。学生時代、高知県人会にて中塚に酒の楽しさを伝授）
- ・庄司悟（アナリスト／1975年より33年間続いたドイツ生活を終え、今は国内でゲーム分析。（日本時間）23:30からブンデスリーガが始まるため、それに合わせて帰宅）
- ・林正明（武蔵野北高校サッカー部保護者会OB／北原氏とともに登場）

【当日の進行と概要】

17:30 キックオフ。ただしこの時点での参加者は

17:45 お宝映像「奇蹟のイレブン (THE GAME OF THEIR LIVES)」が中塚とともに到着。

17:50 頃 2度目の乾杯とともに上映開始 (約 80 分)。

BBC が 2002 年に制作したドキュメンタリー。監督・脚本・プロデュースはダニエル・ゴードン。以下は、DVD ジャケットに記されていた STORY の紹介文。

「1966 年のワールドカップ・イングランド大会で、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）は世界のサッカーファンの度肝を抜く。まったくノーマークだった北朝鮮がサッカー界に君臨するイタリアを破ってベスト 8 に進出し、本大会 3 位になったポルトガルから 3 点先取するという偉業を成し遂げたのだ。これは“ワールドカップ史上最大のサプライズ”として多くの人々の記憶に今も刻まれている。しかし彼らが起こした本当の“奇蹟”はこれだけではなかった…

イレブンの帰国後この物語が語られることは一切なかった。ゴードン監督は 4 年間にわたる交渉の結果、前例のない北朝鮮での撮影を正式に許可される。当時の北朝鮮代表とその関係者を捜し出し、彼らが起こした“奇蹟”と北朝鮮の真実を追った衝撃の記録である。」

- ・映像に見入っている人もいれば、関係ない話で盛り上がっている人もいる。自由気ままな感じがサロンっぽい。
- ・途中で何名か遅れて登場。そのたびに遅れてきた人の自己紹介&音頭で乾杯。けど最初からいた人の自己紹介はまだなかった。

19:00 頃 映像終了。ようやく自己紹介タイムへ。

19:30 頃 北朝鮮レポート開始

徳田仁氏が 64 名 (?) の日本人ツアーを敢行。準備段階から現地の様子までを、現地で雇ったカメラマンの映像 (BGM とナレーションつきで戻ってきたらしい) を用いて説明。貴重な映像とエピソードの数々がおもしろい (後述→徳田さん、お願いします)

21:00 頃 北朝鮮レポート終了。引き続き懇親

21:30 頃 中締め&全員で記念写真 (このタイミングで、最後の参加者、北原氏が登場)

このあとは各地でいろんな話題で盛り上がる。大変面白い!

23:00 頃 電車がなくなる人がいるので会計締め。遠方の人から順に帰宅

23:30 過ぎ 解散。しかしこの時点で、終電に乗れなかった国島氏と、宿を決めていなかった松岡氏はいなばに。その s とどうなったのかは…?

【参加者のコメント】

◆牛木素吉郎 (ビバ! サッカー研究会)

1972年に2度にわたって北朝鮮に行ったことがある。6月に習志野高校OBサッカーチームとともに、11月に日本スポーツ代表団とともに。その40年前の体験を思い出しながら、映像を興味深く見た。映画「奇跡のイレブン」に「1966年W杯の北朝鮮選手が、その後、外国のメディアに会うのは初めて」とあ

ったが、そんなことはない。ぼくが1972年に行ったとき、パク・ドイク（朴斗翼）らにインタビューしている（自慢）。

◆落合博

お宝映像を興味深く見ました。サッカーを含めた北朝鮮社会について、もっと話を深めたかった。翌19日に総書記死去のニュースが流れたことに因縁を感じます

◆金子正彦「歴史的な年 2011」

今年は公私ともに歴史的な年でした。

「公」は東日本大震災。千年に一度の地震と津波。史上初の原発大事故。

「私」的には、仕事関連で大変でした。津波の被害処理は年内に大方片付きましたが、原発関連はいっつまで続くやら・・・。

サッカーの「公」式大会として、1月のアジアカップ優勝、ザックジャパン「よし！」ですね。7月の女子ワールドカップ優勝、なでしこジャパン「あっぱれ！」でしょう。ブラジルW杯3次予選北朝鮮戦は歴史的敗戦だけど、あのスタジアム、何という国か・・・。お宝映像と徳田さんの北朝鮮戦日本人ツアーレポートで「何という国」の正体が少しわかったような気がします。しかし、忘年会の日に主席は亡くなっていたのですね。これからどうなるやら・・・。

「私」的サッカーとしては、8月に札幌ドームで開催された日韓戦。初のドーム観戦でしたが、試合内容に「感激」です。忘年会の翌日、CWC決勝パロセロナVSサントス観戦。「すごい・・・」の一言です。歴史的な2試合をみれて良い年でした。

また、JFL町田ゼルビアの最終節(12/11)を観戦しました。7千人以上の観客がJ2昇格を祝っていました。ここ5年観戦というか観察してきましたが、ここまで発展する、人を引き付ける力がサッカーにはあると実感したところです。(7/30 VS松本山雅戦も観戦したのですが、松田直樹選手もいたのですよ。合掌)

サロン2002は大震災にもめげず、毎月開催を続けたことは素晴らしいと思います。

今年も新しい出会いがあり、仲間と語り合うことができ感謝しています。

来年はJリーグが20年目。サッカー文化の熟成に寄与できればと考えています。

◆北原由

肝心なお宝情報をゲットできず、残念。(同伴した林さんは保護者忘年会より、サロンに最初から参加したかった。と嘆いていました)。

今年一年ありがとうございました。来年もよろしく願いいたします。

◆関谷綾子

私は途中からの参加だったため、徳田さんの貴重な映像が全部見れず、とても残念でしたが、真っ暗なピョンヤン、アーティスティックなマスゲームなど、衝撃的でした。

サッカーのとてもとても濃い話が当たり前になるサロンの場は、私にとってはこの上もない幸せの場所です。

◆中塚義実

お宝映像は当初、1966年イングランド大会の「北朝鮮 vs イタリア」の予定だったが、体育教室に置いてあったはずのVHS(白黒)が本来あるべき位置にない。散らかってはいるがなくなることがない教室なのでどこかに埋もれているのだろうが、探している時間をもったいない。そこで本日のDVD上映に切り替えた(年末の小掃除の際、夏合宿の荷物の中から発見された。年末まで夏合宿の荷物を放置していたことが原因)。

この映像は 2002 年に発売されているが、私が入手したのはもっと後だったと思う。何の気なしに入った池袋の DVD 屋でたまたま見つけたもので、その時に見て以来、今回が 2 度目の鑑賞となった。

当時も今も（今でさえ！）、日本にいる我々のもとに入ってくるのは主に西側目線（特にアメリカ）の情報である。当時の東側情報が入ってくる機会はなかなかない。そんな中での 1966 年の北朝鮮の“快拳”は、西側目線でみると“謎”のチームによる“奇蹟”となるのだろう。

しかし彼らは、ソ連、チェコスロバキア、ハンガリーといった当時の東側強豪国にたびたび遠征してしっかり強化された精鋭である。西側目線だと見えなかった、東側ネットワークの強化網の中にしっかり組み込まれていることがうかがえる。それに加えて「祖国のために」「偉大な首領様のために」という“大義名分”を持った者の強さがある。“奇蹟のイレブン”の物語は、当事者にしてみれば生まれるべくして生まれた物語だったのではないか。そんな気がしてならない。

映画の中では（たぶん実際も）、最初は「不気味」「謎」でしかなかった北朝鮮チームが、その献身的なプレースタイル、無愛想ではあるが謙虚な人柄の選手たちによって、徐々にイングランドの人々に受け入れられていく様子が描かれている。そしてイタリア戦での勝利、大歓声、祝福…

しかし続くポルトガル戦では、3 点先取したにもかかわらず 5 点取られて敗退。“偉大な首領様”がついていようが、サッカーの神様は甘くない。攻撃だけではダメ。一本調子でもダメ。サッカーは奥が深いのですよ…。

さて、徳田さんのレポートにあった先日の平壤のゲーム。バックスタンドを埋め尽くしたのは、やはりアラン祭後の人文字軍団であった。「プロのパフォーマー」たちの演出である。あれはサッカーの応援ではない。あんなことをやっていたら、北朝鮮はいつまでたってもサッカー仲間に入れてもらえないぞと気の毒に思った。ちゃんとサッカーしようや…。

忘年会はいつも通り、面白すぎた。昼間、「サントリー白州蒸留所」の試飲でうまいウイスキーをいただいたので、この日は珍しくハイボールで過ごすことにした。これもまたよし！

1 年の締めくくりとしてとても充実した夜でした。

いや、締めくくりにはまだ 20 日以上ある。まだまだ忘年会の日々は続く…